

現在ご覧になっている学生募集要項には、入学志願書等はありません。
出願の際には、下記URLより出願書類ダウンロード用ファイルを入手してください。
URL：<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html#komidashiigakukei>

令和8年度（2026年度）

大分大学大学院医学系研究科

修士課程看護学専攻

学 生 募 集 要 項

令和7年（2025年）5月



目 次

○大分大学大学院医学系研究科修士課程入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）	1
○大分大学大学院医学系研究科修士課程学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）	3
○令和8年度（2026年度）学生募集要項	
Ⅰ．入学試験について	
1．入試日程	4
2．募集人員	4
3．募集する専攻コース	4
4．出願資格	4
5．出願資格認定	5
6．出願手続	6
7．出願上の注意事項	7
8．指導教員（教授等）の連絡先一覧（令和7年（2025年）5月現在）	8
9．個人情報の取扱い	8
10．受験票の交付	9
11．入学者選抜方法	9
12．障がいのある者等の事前相談について	9
13．合格者発表	9
Ⅱ．入学案内	
1．修士課程看護学専攻の教育課程の概要	10
2．長期履修制度について	25
3．社会人への特例措置（昼夜開講制）	25
4．入学手続	25
Ⅲ．大分大学の位置図	27

大分大学大学院医学系研究科修士課程

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

基本理念

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育・研究の目標

修士課程

優れた指導力を持った教育・研究者、医療人及び技術者を育成するため、理論的・実践的教育を通じて、医学・医療の諸問題に対処できる判断力と問題解決能力の涵養を図ります。

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人を養成します。

求める学生像

修士課程

1. 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識及び技術の修得を志す人
2. 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、優れた指導力を発揮する能力を培うことを志す人
3. 看護の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を修得し、優れた教育活動の実施を志す人
4. 看護理論の検証や看護技術の開発・検証を行い、実践に応用することを志す人
5. 複雑かつ多様な健康問題について、柔軟に対応することができ、学術的・国際的に活躍することを志す人

入学者選抜の基本方針

修士課程

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、昼夜開講制を導入して看護職経験者を積極的に受け入れます。こうした志願者を含め看護学の更なる探究心と倫理観豊かな医療人としての素養を求めます。

この方針のもとに、入学者の選抜は、筆記試験及び口述試験の結果を総合して行います。

選抜試験で重視する観点

入試区分	検査項目	求める学生像				
		高度な専門知識及び技術の修得を志す	優れた指導力を発揮する能力を培うことを志す	優れた教育活動の実施を志す	看護理論の検証や看護技術の開発・検証を行い、実践に応用することを志す	学術的・国際的に活躍することを志す
修士課程入試	筆記試験	◎	○	○	◎	◎
	口述試験	◎	◎	○	◎	○

◎は特に重視する

大分大学大学院医学系研究科修士課程学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)

既定の教育課程を修了し、以下の能力を修得した学生に、修士（看護学）の学位を授与します。

＜高度な知識と知的能力＞

- ・看護学の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を修得し、幅広い視野から柔軟に問題を解決する能力を身につけることができる。

＜確かな研究マネジメント能力＞

- ・看護実践・看護管理・看護教育の分野において自主的に研究課題を立て、その課題の探究に必要な基礎的研究能力を形成することができる。

＜社会を牽引する能力＞

- ・保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、コーディネーターとして問題解決の調整に優れた能力を発揮することができる。
- ・地域社会の健康問題の解決に看護職として率先して取り組み、多様化・国際化した看護活動の必要性をふまえ、看護支援方法の研究・開発を展開し、学術的な成果として社会に還元することができる。

令和8年度（2026年度）学生募集要項

I. 入 学 試 験 に つ い て

1. 入試日程

区分	第1次募集	第2次募集	第3次募集
出願期間	令和7年（2025年） 6月27日（金）～ 令和7年（2025年） 7月3日（木）	令和7年（2025年） 9月8日（月）～ 令和7年（2025年） 9月12日（金）	令和8年（2026年） 2月9日（月）～ 令和8年（2026年） 2月13日（金）
試 験 日	令和7年（2025年） 7月16日（水）	令和7年（2025年） 10月2日（木）	令和8年（2026年） 3月6日（金）
合格者発表	令和7年（2025年） 8月20日（水）	令和7年（2025年） 11月11日（火）	令和8年（2026年） 3月23日（月）

※募集人員に達した場合は、以後の募集は行いません。

※第2次募集、第3次募集を行う場合は、本学ホームページでお知らせします。

2. 募集人員

10名

3. 募集する専攻コース

看護研究コース（実践・管理・教育）	両コース併せて10名
専門看護師コース（がん看護、クリティカルケア看護、老年看護）	

4. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者（令和8年（2026年）3月末までに出願資格に該当する見込みの者も可）

- （1）大学を卒業した者
- （2）大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- （3）外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- （4）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- （5）文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- （6）大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- （7）専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- （8）本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者及び令和8年（2026年）3月末日までに22歳に達する者

5. 出願資格認定

出願資格（６）、（８）のいずれかにより出願しようとする者については、事前に出願資格の審査を受け、出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので、関係書類を次により提出してください。（出願資格認定を希望する者は、事前に志望する指導教員に相談してください。）

（１）出願資格（６）により出願しようとする場合

提出書類	摘 要
①出願資格認定申請書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
②成績証明書	出身学校の長が証明したもの。
③在学証明書 (在学年次が明記されているもの)	日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 ※改姓により、現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。

※本学所定の様式は下記URLからダウンロードできます。

<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

（２）出願資格（８）により出願しようとする場合（次の認定基準を満たしている場合に限ります。）

① 認定基準

看護系短期大学、専修学校、各種学校等の卒業者で、次の各号の全てに該当する者

ア 看護師、保健師又は助産師の資格を有すること。

イ 上記アの資格で、５年（実質）以上の実務経験があること。

ウ 研究会・学会発表もしくは研究報告等の経験があること。

エ 研究テーマを持ち、意欲的に学ぶ姿勢があること。

② 提出書類

提出書類	摘 要
①出願資格認定申請書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
②業績一覧	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。 (主な研究会発表等について確認できる書類のコピーを各１部添付してください。ただし、提出する書類は３篇までとします。)
③研究計画書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
④免許証の写	看護師、保健師又は助産師の免許証の写（Ａ４サイズに縮小してください。） ※改姓により、現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。
⑤在職期間証明書	５年（実質）以上の実務経験を有することの証明書

※本学所定の様式は下記URLからダウンロードできます。

<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

（３）提出期間 第１次募集 令和７年（２０２５年）６月２日（月）

～６月６日（金）１７時まで（必着）

第２次募集 令和７年（２０２５年）８月１８日（月）

～８月２２日（金）１７時まで（必着）

第３次募集 令和８年（２０２６年）１月５日（月）

～１月８日（木）１７時まで（必着）

- (4) 提出方法 郵送に限ります。
「速達簡易書留」郵便で、封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし、郵送してください。
- (5) 提出先 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課
- (6) 認定の結果 認定の結果は、下記期日までに本人に通知します。
第1次募集 令和7年(2025年)6月23日(月)
第2次募集 令和7年(2025年)9月5日(金)
第3次募集 令和8年(2026年)1月30日(金)

6. 出願手続

- (1) 出願期間 第1次募集 令和7年(2025年)6月27日(金)
～7月3日(木)17時まで(必着)
第2次募集 令和7年(2025年)9月8日(月)
～9月12日(金)17時まで(必着)
第3次募集 令和8年(2026年)2月9日(月)
～2月13日(金)17時まで(必着)

(2) 出願方法

- ① 第2志望まで出願することができます。
- ② 出願を希望する者は、**出願する前に志望する指導教員(P.8に掲載されている指導教員の教育・研究内容及び連絡先一覧を参照)**と相談の上、志望する専攻コースを定めて出願してください。第2志望まで出願する者は、第2志望の指導教員にも必ず相談してください。
- ③ 出願書類等をまとめて市販の角2封筒に入れ、封筒の表に入学志願書類送付用宛名ラベルを貼付し、「速達簡易書留」郵便で下記「提出先」宛に郵送してください。

(提出先) 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課

(3) 出願書類等

出 願 書 類 等	摘 要
①入 学 志 願 書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
②受 験 票 ・ 写 真 票	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
③入 学 検 定 料 振 替 払 込 受 付 証 明 書 等 (30,000円)	下記URLから申し込み、受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。 お支払い後は、「収納証明書(コンビニエンスストアによっては領収書)」を受験票下の貼付欄に貼ってください。 ・パソコンからの本学ホームページ (https://www.oita-u.ac.jp/) 上部メニュー → 入試情報 → 入学検定料のコンビニ収納 から申し込んでください。 ・携帯電話からの申込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/) ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。 ※手数料は本人負担です。 ※納入した検定料は返還できません。 ※国費外国人留学生については、納付する必要はありません。 

④成績証明書	出身学校等の長が証明したもの。 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)
⑤卒業（見込）証明書 又は修了（見込）証明書	出身学校等の長が証明したもの。 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)
⑥学位授与証明書 又は学位授与申請書受理証明書	出願資格(2)に該当する者は、大学改革支援・学位授与機構が証明した学位 授与証明書又は学位授与申請書受理証明書を提出してください。
⑦研究計画書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)
⑧出願資格認定通知書（写）	本学の出願資格審査を受け、出願資格ありと認定された者は、出願資格認 定通知書のコピーを提出してください。
⑨住民票の写し (外国人志願者のみ)	日本に在住する外国人は、市・区・町・村長の発行した「住民票の写し」（在 留資格が記載されたもの）を提出してください。なお、入学志願書等には、 この住民票の写しに記載された氏名を記入してください。
⑩受験及び就学承諾書 (有職者のみ)	<u>入学後も在職のまま就学しようとする者</u> （本要項P. 25参照）は、本学ホー ムページから所定の様式をダウンロードして、所属機関長（病院所属であれ ば病院長）の受験及び就学承諾書を提出してください。また、提出にあたっ ては、 事前に指導教員と相談 してください。
⑪住所票	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして、志願者の郵便番号、 住所（合格通知等を受け取る場所）及び氏名を必ず記入してください。
⑫受験票等送付用封筒	市販の長形3号の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、郵便切手（410円） を貼ってください。
⑬戸籍抄本等の写し (改姓した者のみ)	改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本 等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。

※本学所定の様式は下記URLからダウンロードできます。

<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

7. 出願上の注意事項

- (1) 入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。
- (2) 一度受理した出願書類等及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- (3) 出願期間後に到着したもの及び出願書類等に不備があるものは受付できません。
- (4) 出願書類等は一括してとりそろえ、志願者が直接出願してください。
- (5) 出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (6) 災害に関する特別措置（入学検定料等）については、本学ホームページ
(<https://www.oita-u.ac.jp/>) でお知らせします。

8. 指導教員（教授等）の連絡先一覧（令和7年（2025年）5月現在）

- （注） 1. 出願を希望する方は、あらかじめ志望する指導教員と相談の上、志望する専攻コースを定めて出願してください。第2志望まで出願する場合、第2志望の指導教員とも必ず相談してください。
2. 誰に相談してよいかわからない場合や指導教員に連絡がつかない場合、医学部学務課教務グループ（電話 097-586-5530）にご連絡・相談ください。
3. 本学はダイヤルイン方式となっています。市外から電話をする場合は市外局番（097）及び局番（586）の後に内線番号をダイヤルすれば、担当教員と直接通話ができます。
4. E-mail はドメイン名以下（@oita-u.ac.jp）を省略して表示しています。

教員氏名	教育・研究内容	内線番号/FAX	E-mail
いのうえ りょう 井上 亮 教授	一次性頭痛、高齢者せん妄、脳卒中の臨床を基盤として大学院教育を担当している。	5051	ryo
うちかわ ようこ 内川 洋子 教授	看護管理学、看護学教育、基礎看護学を専門領域とする。研究では①看護におけるリーダーシップ、チームワークに基づく組織活性化、②人的資源管理、③経験学習、メタ認知の活用に基づく人材開発、④リフレクションのプログラム開発に取り組んでいる。	5034	uchikawa_yoko
かくま てつや 加隈 哲也 教授	生活環境病としての肥満症をテーマとしている。行動療法的方法論を駆使し「型にはめずにいかに行動変容をさせるか」を追求したいと考えている。	5033	kakuma
すえひろ りえ 末弘 理恵 教授	周手術期、集中治療、救急領域等などのクリティカルケアを必要とする方と家族への看護を専門領域とする。高齢患者へのPICS（集中治療後症候群）予防、術前の口腔ケア、術後せん妄・睡眠障害へのケア等の研究に取り組んでいる。専門看護師コース（クリティカルケア看護）の教育を担当している。	5053	suehiror
まさき たかゆき 正木 孝幸 教授	生活習慣病に関係する因子の解析や効果的なかわりについての臨床と研究、教育を担当している。	5071	masaki
みえの えいこ 三重野 英子 教授	高齢者とその家族への看護（実践、管理、教育）の質の改善・開発を探究する。認知症高齢者の看護、非がん疾患後期高齢者の緩和ケア等の研究に取り組んでいる。専門看護師コース（老年看護）の教育を担当している。	5093	eikomi
わき さちこ 脇 幸子 教授	慢性看護学・看護教育学に関連した教育、専門看護師コース（がん看護）の教育を担当している。 がん、糖尿病などの生活習慣病や難病など慢性疾患を持ちセルフケアを必要とする人を支援するための理論や看護方法、チーム・地域連携について探究している。	5052	syamasit
いわもと ゆういち 岩本 祐一 准教授	精神（心）を病む人やその家族への看護実践について研究している。精神科における自殺予防を踏まえた看護実践の探求、向精神薬の適正使用に向けた看護師の役割開発などに取り組んでいる。	5074	yiwamoto
おの みつみ 小野 光美 准教授	高齢者とその家族がよりよく生きるための理論や看護の方法を探究する。End-of-Life Care をテーマとした研究をすすめている。専門看護師コース（老年看護）の教育を担当している。	5091	mitsumi
ゆきまつ みちこ 幸松 美智子 准教授	慢性疾患を抱える子どもと家族を支援する看護、特に寛解期にある子どもの健全な育成（しつけと療養生活管理の統合）方法や親教育の方法を探究している。また、生活習慣病の予防をめざした子どもの健全な育成（しつけ）と親教育に対する看護ケアプログラムの開発に取り組んでいる。	5075	yukimats

9. 個人情報の取扱い

志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した場合には、選考資料として利用します。

10. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日に受付へ申し出てください。

11. 入学者選抜方法

(1) 学力検査等

小論文（看護学及び医療・保健・福祉に関する問題）、口述試験及び成績証明書により行います。

(2) 試験期日及び学力検査科目

期 日	科目名等	時 間
第1次募集 令和7年（2025年）7月16日（水）	小 論 文	10時30分～12時00分
第2次募集 令和7年（2025年）10月2日（木）	口 述 試 験	13時00分～
第3次募集 令和8年（2026年）3月6日（金）		

※試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内に試験室へ到着した場合に限り、受験を認めます。

(3) 試験会場

大分大学大学院医学系研究科 ^{はさま} 挾間キャンパス

所 在 地 由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地（P.27大分大学位置図参照）

交通アクセス ◎バス利用（大分バス）

〔中央通り②のりば（トキハデパート前）〕又はJR大分駅府内中央口（北口）
〔大分駅前5番のりば〕から「大学病院」行き又は「大学病院」経由を利用（所要時間約40分）、「大学病院」下車（詳細は時刻表で確認してください。）

12. 障がいのある者等の事前相談について

障がい有する等、受験上特別な措置及び修学上特別の配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の事項を記載した本学所定の受験上の配慮申請書に医師の診断書を添えて下記期日までに本学学生支援部入試課に提出してください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 〔・障がいの種類・程度 | ・受験の際に特別な配慮を希望する事項 |
| ・修学の際に特別な配慮を希望する事項 | ・日常生活の状況及びその他参考となる事項 |

第1次募集 令和7年（2025年）6月9日（月）まで

第2次募集 令和7年（2025年）8月25日（月）まで

第3次募集 令和8年（2026年）1月13日（火）まで

13. 合格者発表

第1次募集 令和7年（2025年）8月20日（水）10時

第2次募集 令和7年（2025年）11月11日（火）10時

第3次募集 令和8年（2026年）3月23日（月）10時

合格者には郵送により通知します。また、本学ホームページ（<https://www.oita-u.ac.jp/>）にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による可否の問い合わせには一切お答えできません。

Ⅱ. 入学案内

1. 修士課程看護学専攻の教育課程の概要

(1) 教育目的・目標

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を目指す。

【看護研究コース（実践・管理・教育）】

変動する社会の要請に応え得る質の高い看護活動（個人・集団への看護実践とその管理ならびに看護教育）を創造し、改革するための諸理論と方法を修得する。

- ①看護活動の場における複雑かつ多様な現象を科学的・創造的に探究する力を培う。
- ②看護の方法を検証・開発し、看護実践を改革する力を培う。
- ③看護の質向上に貢献するための看護の組織を改革する力を培う。
- ④生涯学習の観点から看護基礎教育および看護専門職教育の本質を探究し、看護職者を教育する力を培う。

【専門看護師コース（がん看護）】

がん看護専門看護師としての高度実践能力を培う。本コースを修了することにより専門看護師「がん看護」の認定試験の受験資格が取得できる。

【専門看護師コース（クリティカルケア看護）】

急性・重症患者看護専門看護師としての高度実践能力を培う。本コースを修了することにより専門看護師「急性・重症患者看護」の認定試験の受験資格が取得できる。

【専門看護師コース（老年看護）】

老人看護専門看護師としての高度実践能力を培う。本コースを修了することにより専門看護師「老人看護」の認定試験の受験資格が取得できる。

(2) 修業年限

2年を標準とします。

(3) 学生定員

入学定員10名、収容定員20名

(4) コース、履修方法及び概略図（令和7年度（2025年度））

看護学専攻は、「看護研究コース（実践・管理・教育）」と「専門看護師コース（がん看護・クリティカルケア看護・老年看護）」の2コースを設けています。

指導教員の指導・助言のもとに、授業科目（P. 12）から、次のとおり履修するものとします。

◆看護研究コース（実践・管理・教育）の履修

共通必修科目6単位、共通選択科目から6単位以上、専門コース科目から8単位以上、特別研究科目（特別研究あるいは実践課題研究Ⅰ）10単位の計30単位以上。

本コースを志望する方は、P. 8の指導教員の連絡先一覧から希望する指導教員を選択し、あらかじめ志望動機や就学方法などを相談して出願してください。

◆専門看護師コース（がん看護）の履修

共通必修科目 6 単位、共通選択科目から●印科目の 6 単位と※印の科目から 2 単位以上を含む 8 単位以上、専門コース科目から看護実践分野の○印の科目を含む 6 単位、がん看護専門分野の 8 単位を含む 14 単位以上、特別研究科目（実践課題研究Ⅱ・がん看護）12 単位の計 40 単位以上。

本専攻は、平成21年度（2009年度）から専門看護師「がん看護」の資格取得に必要な授業科目を設けました。平成29年（2017年）4月から適用の教育課程は、平成28年度（2016年度）に日本看護系大学協議会における「専門看護師教育課程」（38単位）の認可を受けております。

専門看護師資格取得に必要な教育課程における履修科目や実習などの要件は、P. 12、13のとおりです。志望する方は、あらかじめ事前相談窓口の脇幸子教授（P. 8 の指導教員の連絡先一覧参照）に必ず相談して出願してください。

◆専門看護師コース（クリティカルケア看護）の履修

共通必修科目 6 単位、共通選択科目から●印科目の 6 単位と※印の科目から 2 単位以上を含む 8 単位以上、専門コース科目から看護実践分野の☆印の科目から 6 単位以上、クリティカルケア看護専門分野の 8 単位を含む 14 単位以上、特別研究科目（実践課題研究Ⅱ・クリティカルケア看護）12 単位の計 40 単位以上。

本専攻は、専門看護師コースの「がん看護」に加え、令和元年度（2019年度）から専門看護師「急性・重症患者看護」の資格取得に必要な授業科目を設けました。本教育課程は、平成30年度（2018年度）に日本看護系大学協議会における「専門看護師教育課程」（38単位）の認可を受けております。

専門看護師資格取得に必要な教育課程における履修科目や実習などの要件は、P. 12、13のとおりです。志望する方は、あらかじめ事前相談窓口の末弘理恵教授（P. 8 の指導教員の連絡先一覧参照）に必ず相談して出願してください。

◆専門看護師コース（老年看護）の履修

共通必修科目 6 単位、共通選択科目から●印科目の 6 単位と※印の科目から 2 単位以上を含む 8 単位以上、専門コース科目から看護実践分野の△印の科目を含む 6 単位以上、老年看護専門分野の 8 単位を含む 14 単位以上、特別研究科目（実践課題研究Ⅱ・老年看護）12 単位の計 40 単位以上。

本専攻は、令和 2 年度（2020年度）より専門看護師コースのがん看護とクリティカルケア看護に加え、「老人看護専門看護師」の資格認定に必要な授業科目を設けました。日本看護系大学協議会における専門看護師教育課程（38単位）の認可を受けております。

専門看護師資格取得に必要な教育課程における履修科目や実習などの要件は、P. 12、13のとおりです。志望する方は、あらかじめ事前相談窓口の三重野英子教授または小野光美准教授（P. 8 の指導教員の連絡先一覧参照）に必ず相談して出願してください。

（５）修了の要件

修士課程の修了の要件は、大学院に 2 年以上在学し、P. 12 の授業科目について看護研究コースを希望する者は30単位（専門看護師コースを希望する者は40単位）以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者としてします。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1 年以上在学すれば足りるものとします。

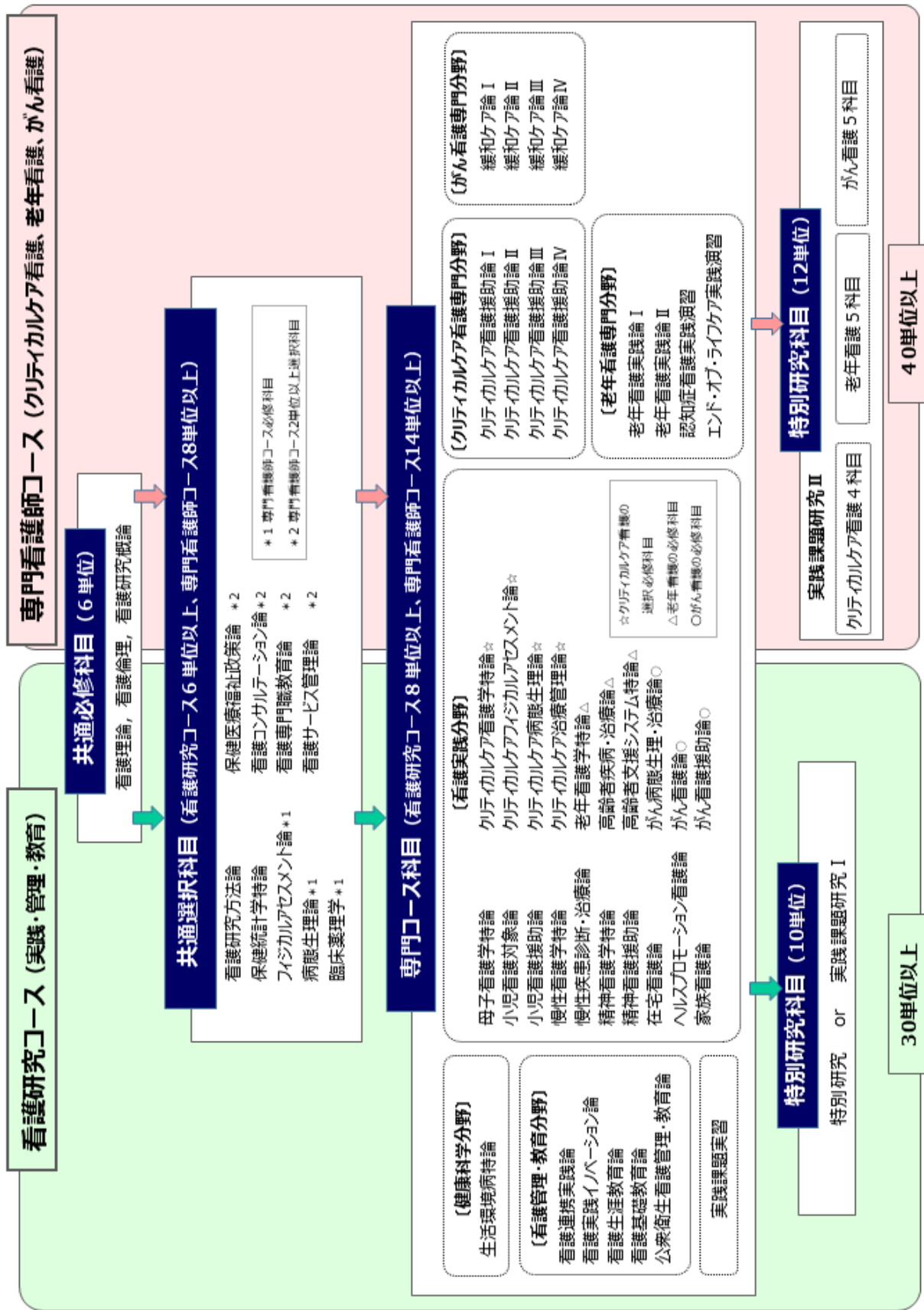
（６）学位の授与

修士課程を修了した者には、修士（看護学）の学位を授与します。

＜看護学専攻の教育課程＞

区分		授業科目	必要単位数	開講 年次	単位数			
					看護研究 コース (実践・管 理・研究)	専門看護師 コース (がん看護)	専門看護師 コース (クリティカ ルケア看護)	専門看護師 コース (老年看護)
共通必修科目		看護理論	6 単位	1 年・後期	2	2	2	2
		看護倫理		1 年・後期	2	2	2	2
		看護研究概論		1 年・前期	2	2	2	2
共通選択科目		保健医療福祉政策論	看護研究コース 6 単位以上	1・2 年次	2	2 ※	2 ※	2 ※
		看護コンサルテーション論		1・2 年次	2	2 ※	2 ※	2 ※
		看護専門職教育論		1・2 年次	2	2 ※	2 ※	2 ※
		看護サービス管理論		1・2 年次	2	2 ※	2 ※	2 ※
		看護研究方法論		1・2 年次	2	2	2	2
		保健統計学特論	専門看護師コー ス 8 単位以上	1・2 年次	2	2	2	2
		フィジカルアセスメント論		1・2 年次	2	2 ●	2 ●	2 ●
		病態生理学		1・2 年次	2	2 ●	2 ●	2 ●
		臨床薬理学		1・2 年次	2	2 ●	2 ●	2 ●
専門 コース 科目	健康科学分野	生活環境病特論	看護研究コース 8 単位以上 専門看護師コー ス 14 単位以上	1・2 年次	2	2	2	2
	看護管理・ 教育分野	看護連携実践論		1・2 年次	2	2	2	2
		看護実践イノベーション論		1・2 年次	2	2	2	2
		看護生涯教育論		1・2 年次	2	2	2	2
		看護基礎教育論		1・2 年次	2	2	2	2
		公衆衛生看護管理・教育論		1・2 年次	2	2	2	2
		看護実践 分野		母子看護学特論	1・2 年次	2	2	2
	小児看護対象論			1・2 年次	2	2	2	2
	小児看護援助論			1・2 年次	2	2	2	2
	慢性看護学特論			1・2 年次	2	2	2	2
	慢性疾患診断・治療論			1・2 年次	2	2	2	2
	精神看護学特論			1・2 年次	2	2	2	2
	精神看護援助論			1・2 年次	2	2	2	2
	在宅看護論			1・2 年次	2	2	2	2
	ヘルスプロモーション看護論			1・2 年次	2	2	2	2
	家族看護論			1・2 年次	2	2	2	2
	がん病態生理・治療論			1・2 年次	2	2 ○	2	2
	がん看護論			1・2 年次	2	2 ○	2	2
	がん看護援助論			1・2 年次	2	2 ○	2	2
	クリティカルケア看護学特論			1・2 年次	2	2	2 ☆	2
	クリティカルケアフィジカルアセスメント論			1・2 年次	2	2	2 ☆	2
	クリティカルケア病態生理論			1・2 年次	2	2	2 ☆	2
	クリティカルケア治療管理論			1・2 年次	1	1	1 ☆	1
	老年看護学特論			1・2 年次	2	2	2	2 △
	高齢者疾病・治療論			1・2 年次	2	2	2	2 △
	高齢者支援システム特論			1・2 年次	2	2	2	2 △
	がん看護 専門分野	緩和ケア論Ⅰ		1・2 年次	2	2	2	2
		緩和ケア論Ⅱ		1・2 年次	2	2	2	2
		緩和ケア論Ⅲ		1・2 年次	2	2	2	2
		緩和ケア論Ⅳ		1・2 年次	2	2	2	2
	クリティ カルケア 看護専門 分野	クリティカルケア看護援助論Ⅰ		1・2 年次	2	2	2	2
		クリティカルケア看護援助論Ⅱ		1・2 年次	2	2	2	2
		クリティカルケア看護援助論Ⅲ		1・2 年次	2	2	2	2
		クリティカルケア看護援助論Ⅳ		1・2 年次	2	2	2	2
	老年看護 専門分野	老年看護実践論Ⅰ		1・2 年次	2	2	2	2
		老年看護実践論Ⅱ		1・2 年次	2	2	2	2
		認知症看護実践演習		1・2 年次	2	2	2	2
		エンド・オブ・ライフケア実践演習		1・2 年次	2	2	2	2
	実践課題実習				1・2 年次	2	2	2
特別研究科目		特別研究	看護研究コース 10 単位 専門看護師コース 12 単位	2 年次	1 0	—	—	—
		実践課題研究Ⅰ		2 年次	1 0	—	—	—
		実践課題研究Ⅱ		1・2 年次	—	1 2	1 2	1 2

令和7年度（2025年度）大分大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻



<授業科目の講義等の概要及び担当教員>

●共通必修科目

授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
看 護 理 論	本科目は、①卓越した看護実践や看護学考究の基盤となる看護理論とその発展過程を理解する、②看護実践の基礎となる代表的な看護理論の概念・特徴を踏まえた看護実践への活用可能性について探求する、の2点をねらいとする。 加えて、特に専門看護師として、看護理論を用いた看護現象の理解と援助方法への適用について考察するとともに、専門看護師の役割遂行における看護理論の位置づけを明確にしていくこともねらいとする。	内 川 洋 子
看 護 倫 理	看護実践の場で直面する倫理的な葛藤や問題について分析、対応していくための基礎的能力を養う。看護実践の場で経験した事例における患者／クライアント／利用者の状況・背景、かかわる人々の立場・価値の相違に関する分析をとおり、倫理的感受性を高める。	小 野 光 美
看 護 研 究 概 論	看護研究の特質を理解し、看護実践（管理、教育等を含む）の改善・改革を推進するための研究能力の基盤を養う。さまざまな分野や場において、看護現象をとらえ探究する研究過程を適切にすすめるために必要な知識を学ぶ。	脇 幸 子

●共通選択科目

授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
保健医療福祉政策論	わが国の保健医療福祉政策において、看護に関連する法律や制度に関して、社会的背景や政策形成過程を含めて理解を深めるとともに、他国の政策や過去の政策との比較という視点をも取り入れて、看護実践をとりまく法律や制度について討議し、政策形成過程における看護職の役割を探求する。	後 藤 奈 穂
看護コンサルテーション論	専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関して、関連する理論や技術を学ぶことにより専門看護師の役割発展のための基礎的能力を修得する。 看護職が職務を遂行する過程で直面する、複雑で対応困難な問題を抱える患者・家族の問題を解決していく上で、医療チームの中での看護の立場から、相談の理論と技術を使って支援する能力を培う。	岩 本 祐 一
看護専門職教育論	質の高い医療/看護サービスを提供していくためには、看護職一人一人が看護専門職者として倫理観を持ち、自ら学び解決する能力と学際的知識を持った反省的实践者として育ち、育ち合うことが期待される。そこで、看護職がそれぞれの実践領域において、自ら学び続けたり、学習支援の役割を担う上での、教育・学習の基礎的理論を学び、看護専門職教育の視座や方法を考察することをねらう。	幸 松 美 智 子

授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
看護サービス管理論	看護職が多様で複雑な環境の変化に適応し、人々の健康問題解決や健康課題の達成と組織の目標達成を図るためには、管理活動が求められる。本科目は、看護サービスの概念の特性を理解し、看護サービス管理におけるマネジメントとリーダーシップの基本的な理論と質的管理方法を学ぶことをねらう。	内 川 洋 子
看護研究方法論	看護研究における主要な研究方法を具体的に学習することを目的とする。	加 隈 哲 也
保健統計学特論	臨床看護学、公衆衛生看護学ほか、統計学的手法を用いた医学論文の内容を正しく理解し、看護師、保健師、助産師としての職責を、自信を持って実践できるための統計知識を身につけることが目的である。	加 隈 哲 也
フィジカルアセスメント論	本科目では、①複雑な健康問題をもつ対象者の身体状態に関する情報を収集するための組織的・系統的な身体診査（以下、フィジカルイグザミネーション）を修得する、②組織的・系統的なフィジカルイグザミネーションを用いて収集した情報について、解剖生理学・病態生理学の知識を基盤に分析・統合し、適切な臨床看護判断を導くための高度なフィジカルアセスメントを実践する、の2点をねらいとし、高機能シミュレーター・模擬患者（SP）・臨床事例を用いて複雑な健康問題をもつ対象者の看護診断過程を具体的に学ぶ。	正 木 孝 幸
病 態 生 理 学	人体の正常な機能が障害された場合の実態を明らかにし、その原因を解明する。明らかにされたエビデンスをもとに、高度看護実践に必要な知識と看護実践にむけた能力を養う。	井 上 亮
臨 床 薬 理 学	「薬の科学」すなわち物質としての薬の特性、薬物動態学、薬力学等の臨床薬理学的知識や「薬を適切に使うための科学」としての治療の実際とリスクマネジメントについて学び、高度実践看護師がベッドサイドで行う薬剤使用に関する臨床判断と患者の服薬管理能力を高める高度な看護実践に必要な知識と看護実践にむけた能力を養う。	上 村 尚 人

●専門コース科目

分 野	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
健康科学分野	生活環境病特論	先進国においては、細菌感染症が主な死因となっていた時代から、様々な危険因子の集積によって罹患する慢性疾患の時代へと、疾病構造は変化してきた。このような現代社会においては、健康や病気には、生活習慣のみならず、様々な社会的要因が関係してくる。「社会・環境医学的背景からの疾病」といったテーマを中心に、ゼミでの講義とディスカッションを行う。	加 隈 哲 也
看護管理・教育分野	看護連携実践論	保健医療福祉の多様な実践活動における「連携」の現状と、保健医療福祉の「連携」の基本となる理論と手法を理解し、看護の支援方法として多職種との協働のあり方について、また看護専門職の役割としての連携システムの構築について考察する。	後 藤 奈 穂

分野	授業科目	講義等の概要	担当教員
看護管理・教育分野	看護実践イノベーション論	イノベーション概念およびイノベーションの普及モデルを理解し、看護実践の質改善におけるイノベーションの必要性について考察し、イノベーターとしての看護専門職の役割を考える。	内川 洋子
	看護生涯教育論	生涯学習とは、生涯のあらゆる時点で、あらゆる場において、あらゆる教育資源を活用してなされ得る、自発的かつ自律的な学習行動である。人間は生涯にわたり学習を継続することなく、心豊かに生きていくことは困難である。医療・保健の現場でも、様々な問題が発生し、それが時代とともに変化している。つまり、基礎教育で身につけた知識・技術だけでは対応できないのが現代社会である。 そこで、本科目では、生涯教育理論および成人学習理論を基盤として、看護者の生涯学習を支援するための学習内容・方法、社会的システム、教育計画・条件整備などについて学ぶ。また、生涯学習と関連した諸概念である、継続教育、成人教育、リカレント教育、リフレッシュ教育について、これまでの看護学教育の変遷を振り返り、看護における生涯教育の実際と課題について学ぶことをねらいとする。	脇 幸子
	看護基礎教育論	看護学教育の歴史的変遷や看護基礎教育に関わる教育制度、法律、施策の目的や主旨を学習し、看護教育の現状の問題点を考察し、課題を明確にする。 専門職としての生涯学習体系における看護基礎教育の位置づけを考察しながら、看護実践や看護学の発展に寄与できる人材の生涯にわたってキャリア発達を支援するシステムや制度のあり方を探究し、将来への展望をもつ。	幸松 美智子
	公衆衛生看護管理・教育論	地域看護活動において、人々の健康レベルの向上を図る管理・組織運営機能について理解し、看護職の政策形成やその役割遂行上の課題を検討する。これにより地域の健康管理を保障する看護活動方法を探究する。	後藤 奈穂
看護実践分野	母子看護学特論	母子看護学の対象となる女性、子ども、パートナーそして家族を理解し支援していくために、基盤となる理論・概念への理解を深め、多角的な観点から看護の現象を論考し、看護実践を探究していく能力を培う。	幸松 美智子
	小児看護対象論	子どもの身体諸機能の成長・成熟や自我・認知・コミュニケーションといった発達について基本的な知識や理論を学ぶとともに、これらの知見や理論を活用して子どもの成長・発達を包括的に査定し、発達に応じた看護を実践する能力を養う。また、母子相互作用に関する諸理論の学びを通して、養育期の家族が抱える問題や課題の理解を深め、看護ケアのあり方を洞察することで、育児支援が出来る能力を養う。 自我発達・認知発達・道徳観の発達など基本的な理論について学ぶとともに、これらの理論を活用して子どものこのころの発達を包括的に査定する能力、発達を考慮した高度な実践能力を養う。	幸松 美智子

分野	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
看護実践分野	小児看護援助論	病気や障害のある子どもとその家族を理解するために活用できる理論や概念について学び、包括的にアセスメントする能力を養う。また、子どもおよび家族に適した援助方法について既存の研究やエビデンスを概観し、効果的なケアの提供が出来る能力を養う。 倫理的な視点から事例を分析し、倫理的判断に基づいて、子どもおよび家族に適した援助方法について探究する。 自我発達・認知発達・道徳観の発達など基本的な理論について学ぶとともに、これらの理論を活用して子どものこころの発達を包括的に査定する能力、発達を考慮した高度な実践能力を養う。	幸松 美智子
	慢性看護学特論	社会の激動の中、慢性病をもって(と共に)生きるのに生じる健康問題はますます複雑化し、慢性病をもつ人は、疾病の憎悪を予防し、長期にわたって健康生活を維持するためには、継続的な医療管理を受け、自己の生活を豊かに営むセルフケアの確立が必要である。そこで、慢性病に関する保健・医療・福祉の動向、および慢性看護に関する諸理論や概念、研究、慢性看護の臨床知をふまえ、健康の増進、慢性疾患の予防、慢性的な心身の不調と共に生きる人々と社会に貢献するために、慢性看護の役割や課題を探究し、慢性看護の実践者として基盤となる能力を修得する。	脇 幸子
	慢性疾患診断・治療論	慢性性 (Chronisity) の中でも、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌・代謝系、神経難病系、骨・運動器系のうち、代表的な慢性疾患の診断プロセスと重複し複雑に絡み合う慢性疾患の特徴の理解、その治療の基本原則の知識を活用し、看護の視点から、これらの疾患が心身及び生活に及ぼす影響を包括的にアセスメントする。さらに、ケアとキュアの統合した包括的なアセスメントに基づき、慢性疾患の予防・診断・治療に伴う、慢性疾患を持つ人の看護上の課題や看護方針を考案し、高度な看護実践を展開できる能力を修得する。	脇 幸子
	精神看護学特論	現代社会における心の健康に関する問題について社会心理的側面から理解し、エビデンスに基づいた専門的な介入を実践するための基盤となる理論や概念、モデルの基本的知識を修得する。 また対象者の心理社会的理論を活用してアセスメントし、看護援助方法について検討することや看護実践を深く振り返ることにより精神看護の専門的な知識・技術を修得する。	岩本 祐一
	精神看護援助論	精神科治療に必要とされる専門的な治療技法や看護介入方法について知識と技術を修得する。 また精神科医療における身体療法や精神療法、心理社会的療法という治療の種類と適用について理解を深め、それぞれの対象者の疾患や症状に合わせた治療の適用と看護の役割について考えることができる。	岩本 祐一

分野	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
看護実践分野	在 宅 看 護 論	わが国の医療制度の変革により重要な位置づけになってきている在宅医療において、在宅看護が果たす役割は大きい。本科目では、在宅で療養する様々な対象のニーズに適切に対応するために必要な保健医療福祉制度や理論、方法論について学び、在宅看護の専門性を探求する。	不 開 講
	ヘルスプロモーション 看 護 論	ヘルスプロモーションの概念と国際的動向を踏まえ、個人の健康推進を支援する方法論の開発と、健康推進のための技術の開発、組織の改変、政策づくりなど環境整備における看護の機能を探求する。	後 藤 奈 穂
	家 族 看 護 論	家族を単位とした看護ケアの発展をめざし、家族看護学の背景理論と家族アセスメント、家族ケア機能を高める援助方法、家族の心理的サポート、健康教育、ケアマネジメント、家族カウンセリング、家族療法などの援助方法について理解する。	幸 松 美 智 子
	が ん 病 態 生 理 ・ 治 療 論	「がんとは何か」。これを確実に理解すべく、遺伝子の正常な働き、細胞増殖の仕組みの理解を基本とし、がん細胞における遺伝子の異常と発癌機構、および体内におけるがん細胞の影響を理解し、科学的エビデンスに基づく予防や早期発見について理解する。また、がんの進行に伴う身体的症状の病態生理や化学療法や放射線療法の基礎となるがん細胞に対する抗がん剤や放射線の作用について理解する。さらに、がんの病態生理を踏まえたがん治療学総論や各種治療法、および今後発展の望まれる最新治療についても理解することにより、がん治療を受ける患者に対して必要な看護の理論的基盤を修得する。	井 上 亮
	が ん 看 護 論	がん患者やその家族を理解し、全人的ながん看護における卓越した専門看護師としての看護実践の基盤となる諸理論や看護モデルとその臨床での適用について学ぶ。また、臨床現場のがん看護の質向上の基盤となる諸理論の臨床での活用について探求し、がん看護専門看護師としての役割を開拓していく能力を修得する。	脇 幸 子
	が ん 看 護 援 助 論	包括的がん医療におけるがん看護専門看護師の役割を踏まえて、複雑な健康問題を持つがん患者と家族に対する包括的な看護援助の基盤となる、診断から再発期、終末期に至るまでの治療過程におけるがん患者とその家族への意思決定支援、がん治療の特徴に応じた看護援助、がん薬物療法の基本となる薬剤管理、がん患者の発達段階に応じた看護援助、がん患者のがんとの共存に向けた看護援助について理解し、がん患者と家族の生活調整やセルフケア能力をエンパワーメントする看護援助に関する卓越した看護実践能力を修得する。	脇 幸 子
	ク リ テ ィ カ ル ケ ア 看 護 学 特 論	危機的状況下における人間を総合的にとらえ、衝撃的な体験や持続するストレス（危機とストレス）などに際して、人間の反応や立ち直りの過程、それを促すような専門的援助のあり方と課題を明らかにする。	末 弘 理 恵

分野	授業科目	講義等の概要	担当教員
看護実践分野	クリティカルケア フィジカル アセスメント論	本科目では、①クリティカルケアを必要とする患者の複雑な病態・生活行動・機能回復状況を把握し、重症化の回避と早期回復を目的とする高度な看護実践を導くための、系統別・状況別フィジカルアセスメントに関する知識・技術・臨床判断能力を修得する、②事例・高機能シミュレーターを用いた複雑な健康問題をもつ患者の臨床判断過程を具体的に学修する、の2点をねらいとし、これらを講義・演習・ゼミやその中での討議を通して学修する。	末 弘 理 恵
	クリティカルケア 病態生理論	本科目では、特に成人期にある患者にフォーカスをあてて、急性・重症患者の健康上の問題を的確にアセスメントし、自律した高度実践看護師としての看護実践（的確な全身管理）を提供するために必要な急性・重症患者の病態生理を系統的に学んでいくことをねらいとし、これらを講義・討議を通して学修する。	末 弘 理 恵
	クリティカルケア 治療管理論	急性・重症患者に必要な治療・管理を理解し、治療・療養過程全般を通して患者中心の医療がすすめられるよう、急性・重症患者看護専門看護師として、適切な治療管理・ケアを実践する基礎的能力を養う。	末 弘 理 恵
	老年看護学特論	老年看護実践を導く概念や諸理論・モデルを系統的に学び、「老い」「老年期を生きる人」への理解を深めるとともに、どのような場・状況においても高齢者の尊厳を支えることを第一義とした倫理的意思決定に基づく看護を展開する能力を養う。さらに、老人看護専門看護師の役割・機能を理解し、自分自身の学修課題を明確化する。	三 重 野 英 子
	高齢者疾病・治療論	老年期に生じやすい疾病の疫学・成因、病態、診断、治療、予後、医学的課題について理解を深め、加齢を基盤に疾病や治療がもたらす高齢者の健康問題を適切・妥当にアセスメントする能力、医師と連携・協働して治療・症状マネジメントに参画する能力を養う。	三 重 野 英 子
	高齢者支援 システム特論	高齢者の暮らしを支えるヘルスケアシステムの変遷・現状と展望を学び、フォーマル/インフォーマルな支援システムの理解を深めるとともに、高齢者のケアニーズをとらえた適切な支援システムの活用を個別的に援助するマネジメント能力を養う。さらに、高齢者のヘルスケアシステムの地域課題をとらえ、必要なシステム構築を提言し参画する能力を養う。	小 野 光 美
がん看護専門分野	緩和ケア論Ⅰ	がん患者に提供される緩和ケアの捉え方について理解し、がん患者と家族の total pain の中でもがん治療過程で生じるさまざまな症状による身体的苦痛の緩和に焦点を当て、病態生理に基づくキュア(cure)と I A S Mモデル等の緩和ケアに関連した理論や既存の研究成果、実践報告、個々の体験を活用したケア(care)とを融合させた高度な知識と技術に基づく、患者および家族の包括的な臨床判断と治療過程で生じる身体的な障害に対する症状マネジメントについての学習を深め、リハビリテーションとしての支援内容を追及し、患者のQOLを高める高度な看護実践能力を修得する。	大 野 夏 稀

分野	授業科目	講義等の概要	担当教員
がん看護専門分野	緩和ケア論Ⅱ	治療期のがん薬物療法における外来化学療法での看護援助とがん患者と家族の total pain の中でもがん治療過程で生じる精神的・社会的・スピリチュアル的苦痛の緩和に焦点を当て、これまでに学習した理論や既存の研究成果、実践報告、個々の体験を活用したケアとキュアを融合させた知識と技術に基づく高度な看護援助について探求するとともに、患者と家族のQOLを高めるためのセルフケア能力促進に向けた様々な取り組みについての学習を深め、治療期のがん患者と家族の全人的苦痛の緩和としての高度な看護実践能力を修得する。	脇 幸子
	緩和ケア論Ⅲ	がん患者のEOL (End of life care) としての終末期医療の現状と課題を踏まえ、終末期がん患者の全人的ケアとしての症状マネジメントや精神的・社会的・スピリチュアル的苦痛に対するアプローチ法、終末期にあるがん患者の家族の予期悲嘆やグリーフケアについて、がん治療におけるキュアとがん看護の基盤となる理論、既存の研究成果や実践報告、個々の体験などを活用したケアを融合させた知識と技術に基づく高度な看護援助について探求するとともに、様々な職種と協働する終末期の在宅移行支援や地域連携とコーディネーションについての学習を深め、終末期のがん患者と家族の全人的苦痛の緩和としての高度な看護実践能力を修得する。	脇 幸子
	緩和ケア論Ⅳ	これまでの学習内容を活用して、がんの予防や早期発見に向けてのヘルスプロモーションとがん患者と家族に対する補完・代替療法をはじめとする相談支援におけるアプローチ法、緩和ケアに携わる医療チームメンバーへのコンサルテーション、複雑な問題を抱えているがん患者と家族の倫理調整、看護職への継続教育の中での緩和ケア教育、緩和ケア領域における専門的知識と技術の探求としての研究の現状と研究結果の実践への適用などについて学習を深め、包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての卓越した看護実践能力を修得する。	脇 幸子
クリティカルケア看護専門分野	クリティカルケア看護援助論Ⅰ	本科目では、①急性・重症患者の重症化回避と早期回復に向けたケアとキュアを融合させた看護実践を提供するために、基本的知識と理論的基盤に基づいて患者およびその家族・重要他者に関するアセスメントと高度看護実践の方略を探究する、②クリティカルケア領域で終末期を迎える急性・重症患者およびその家族・重要他者へのケアや看取りのあり方について探究する、の2点をねらいとし、これらを講義・討議を通して学修する。	末 弘 理 恵
	クリティカルケア看護援助論Ⅱ	クリティカルな状況における患者の選択と意思決定の問題について、倫理的問題を解決するための実践力を養う。 突然の発症や予後不安等により、生じやすい倫理的問題や倫理調整の方法について理解し、事例検討を通して、急性・重症患者看護専門看護師としてのより専門性の高い看護実践能力を修得する。	末 弘 理 恵

分野	授業科目	講義等の概要	担当教員
クリティカルケア看護専門分野	クリティカルケア看護援助論Ⅲ	クリティカルな状況にある患者は、突然の発症や予後不安に対する不安・恐怖、外傷や手術療法、検査・治療、疾病等より生じる疼痛、循環・呼吸不全等の症状など様々な要因により、苦痛を体験する。このような患者が有する苦痛を緩和・軽減するためのケア・処置の理論、原理、方法、効果判定緩和するため、理論や概念を用い探究し、急性・重症患者看護専門看護師としてのより専門性の高い看護実践能力を修得する。	末 弘 理 恵
	クリティカルケア看護援助論Ⅳ	本科目では、クリティカルケア領域における専門看護師の理論的基盤を学修するとともに、サブスペシャリティとしての救急看護領域における患者の特性と看護実践について理論的に探究することをねらいとし、これらを講義・討議を通して学修する。	末 弘 理 恵
老年看護専門分野	老年看護実践論Ⅰ	高齢者の健康生活評価を適切に行うために必要な知識と技術を修得する。高齢者の全体像を包括的にとらえるヘルスアセスメントの枠組みと方法・評価ツール、適用する看護技術を学び、アセスメントスキルの向上を図る。	三 重 野 英 子
	老年看護実践論Ⅱ	複雑な健康問題が顕在/潜在する高齢者とその家族に対して、老年看護学をはじめ関連諸科学の知識に基づき、尊厳の保持とQOLの向上を意図した的確な看護を展開する能力を養う。また、老人看護専門看護師に求められるチーム医療・看護における調整・連携の方法論を探究し、チームアプローチを推進する能力を養う。	三 重 野 英 子
	認知症看護実践演習	認知症の疫学・病態・診断・予防・治療を理解し、どのような場や容態においても認知症高齢者とその家族の尊厳と自立を支える専門性の高い看護を提供する看護実践能力を修得する。また、地域全体や病院・施設・事業所等組織の認知症医療・ケアの質向上にむけた提言やプロジェクトへの参画を可能にする能力を養う。さらに、認知症看護実践において必要とされる老人看護専門看護師の役割について理解を深める。	三 重 野 英 子
	エンド・オブ・ライフケア実践演習	高齢者のエンド・オブ・ライフケアEnd-of-Life Careに関する看護学・医学・倫理学・法学等の新知識を学際的に学び、人生の最終段階を生きる高齢者が、最期までの日々を納得し、心地よい状態で生き抜くための質の高い個別的な看護を展開する能力を養う。また、エンド・オブ・ライフケアにおいて必要とされる老人看護専門看護師の役割について理解を深める。	小 野 光 美
実践課題実習		看護管理・教育、看護実践の場における実践上の課題を科学的に追究する力を培う。 本科目は、特別研究・実践課題研究に向けて研究課題を明確にするための学習として位置づけることができる。	看護系教員 (各教授及び各准教授)

●特別研究科目

授 業 科 目		講 義 等 の 概 要	担当教員
特 別 研 究		看護研究の本質と基本的方法を学び、研究能力を養う。看護現場の諸問題を研究を通して解決するための基礎的能力、また、将来、看護学領域の研究者として発展していくための基礎的能力を養う。	各教授及び 各准教授
実 践 課 題 研 究 I		看護現場で生じる様々な看護実践上の問題・課題を研究的視点からリアルタイムに分析・改善し、実践の質を高める能力を養う。	各教授及び 各准教授
実践課題研究Ⅱ（がん看護）	がん看護 実践演習Ⅰ	さまざまな臨床問題を持つがん患者を受け持ち、直接ケアを通して、がん看護における専門看護師としての卓越した実践能力を養う。がん看護の実践に当たっては、がん看護学領域の専任担当教員のスーパーバイズを受けながら、専門的な知識と経験を積み重ね、がん看護のケア開発能力を培っていく。さらに、この実習を通してがん看護における倫理的課題や教育的課題を分析し、解決に向けての方向性を検討する。さらに、この実習での学びを基に、がん看護実践演習Ⅱ、Ⅳに向けての自らの課題を明確にする。	脇 幸子
	がん看護実践 演習Ⅱ	がん看護実践演習Ⅰにおける卓越した看護実践を踏まえ、がん看護専門看護師のさまざまな病期、病態のがんを持ちながら治療し、がんと共に生活している患者とその家族へのがん看護専門看護師の援助の実際やチーム医療における様々な活動の実際を通して、がん看護専門看護師の活動の根拠についての考察を行い、がん看護専門看護師としての6つの役割（高度な実践、コンサルテーション、他職種との連携・調整、スタッフ教育、倫理的判断と調整、研究）について理解を深める。さらに、この実習での学びを基に、がん看護実践演習Ⅳに向けての自らの課題を明確にする。	脇 幸 子
	がん看護実践 演習Ⅲ	臨床指導医師やがん看護専門看護師のもとに、がんの診断に必要な検査と確定診断の過程、がん治療（手術療法・がん薬物療法・放射線療法・緩和医療・在宅医療）における患者の病態や身体機能等に適した治療法の選択とその決定過程、実際の治療と治療に伴う合併症や有害事象への対応過程を理解し、がん治療に関わる身体管理や症状緩和、治療の遂行に必要なケアとキューを融合した看護援助を行うための卓越した臨床判断能力や高度な看護実践能力を修得する。 また、治療・療養過程で様々な意思決定を行う患者に対して、他職種との連携・調整を図った、がん看護専門看護師としての高度な看護実践能力を修得する。	大 野 夏 稀

授 業 科 目		講 義 等 の 概 要	担当教員
実践課題研究Ⅱ（がん看護）	がん看護実践演習Ⅳ	がん看護実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習を踏まえ、複雑で対応困難な問題を持つがん患者や家族に対して、専門的知識や技術を用いた個別的なケア計画を立て、外来や病棟の看護スタッフ、院内外その他職種と協働して卓越した看護を実践する。さらに、がん患者・家族と医療スタッフのニーズに対して、担当教員やがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら、専門看護師の6つの機能を使って貢献できる課題をアセスメントし、介入計画の立案・実施・評価を行い、がん看護の質向上を目指したがん看護専門看護師としての能力を開発する。	脇 幸 子
	がん看護実践課題研究	看護研究の本質と基本的方法を学び、がん看護の実践の現場で生じる様々な問題や課題の研究を通して分析、改善し、実践の質を高める能力を養う。	脇 幸 子
実践課題研究Ⅱ（クリティカルケア看護）	クリティカルケア看護学実習Ⅰ	重症・集中治療の場において、集中的・高度な治療を有するクリティカルな状況にある患者およびその家族のニーズをとらえ、適切な看護を実践する。特に、患者の治療・処置および診断プロセスの理解を深め、専門看護師として自律した看護を実践する能力を高める。さらに、救命・救急医療の場における救急搬送、初療およびポストケアの過程を通して、専門的看護実践・チーム医療と多職種連携について学びを深める。	末 弘 理 恵
	クリティカルケア看護学実習Ⅱ	重症・集中治療の場において、複雑な病態ならびに対応が難しい患者とその家族を担当し、患者の治療に対する反応等の高度なアセスメントをふまえ、高度な看護実践を行う。さらに、クリティカルな状況にある患者の家族、看護職、他職種等に対しての調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の機能、リーダーシップを学ぶ。 これらの実習を通し、クリティカルケア看護における専門看護師としての自己の課題を考察する。	末 弘 理 恵
	クリティカルケア看護学実習Ⅲ	クリティカルケア看護学実習Ⅱでの学びをふまえ、重症・集中治療を受け複雑な病態並びに対応が困難な患者とその家族・重要他者を担当し、患者の治療に対する反応等の高度なアセスメントを基盤に看護を実践する。 また、クリティカルな状況にある患者および家族・重要他者、看護職、他職種等に対しての調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の機能並びにリーダーシップについて、急性・重症患者看護専門看護師のスーパーバイズを受けて実践する。 実習を通して、クリティカルケア看護における専門看護師としての役割と自己の課題を考察する。	末 弘 理 恵
	クリティカルケア看護学実践課題研究	クリティカルケア看護の実践現場で生じる様々な問題・課題を研究的視点より分析・改善し、実践の質を高める能力を養う。	末 弘 理 恵

授 業 科 目		講 義 等 の 概 要	担当教員
実践課題研究Ⅱ (老年看護)	老年看護実践 実 習 I	認知症専門外来において、認知症専門医による診療過程を学び、認知症の病態・症状および検査・診断、薬物治療の選択調整・評価について理解を深める。また、認知症高齢者とその家族に対して、認知症の病態や進行度、生活機能の変化、生活環境、生活史、本人の認知世界等をとらえた包括的アセスメントを行い、適切な個別的看護を展開する能力を養う。さらに、地域の認知症医療ケアシステムにおいて、老人看護専門看護師として果たすべき役割・機能を探究する。	三重野 英子
	老年看護実践 実 習 II	特定機能病院において、身体疾患の治療を目的に入院する認知症高齢者とその家族を対象に、ケアとキュアを融合した個別性の高い看護を展開する。認知症の病態や認知機能を的確にとらえる能力を養うとともに、複雑な健康問題を抱える認知症高齢者とその家族の看護上の問題を解決する高度な実践能力を養う。さらに、認知症高齢者がもつ力を支える看護実践を通して、老人看護専門看護師に求められる調整、倫理調整、相談、教育、研究について理解を深める。	三重野 英子
	老年看護実践 実 習 III	一般病院において、エンド・オブ・ライフケアを必要とする高齢者とその家族を対象に、ケアとキュアを融合した個別性の高い看護を展開する。人生の最終段階にあり、複雑な健康問題を抱える高齢者（以下、終末期高齢者とする）とその家族に対して、尊厳を支える看護を高い倫理観をもつて的確に実践する能力を養う。さらに、エンド・オブ・ライフケアの実践を通して、老人看護専門看護師に求められる調整、倫理調整、相談、教育、研究について理解を深める。	小 野 光 美
	老年看護実践 実 習 IV	在宅において、エンド・オブ・ライフケアを必要とする高齢者とその家族を対象に、ケアとキュアを融合した個別性の高い看護を展開する。老衰の過程にある高齢者（在宅高齢者）とその家族に、在宅医療・看護チームの一員としてかかわる中で、尊厳を支える看護を高い倫理観をもつて的確に実践する能力を養う。さらに、在宅でのエンド・オブ・ライフケアの実践を通して、老人看護専門看護師に求められる調整、倫理調整、相談、教育、研究について理解を深める。	小 野 光 美
	老年看護実践 課 題 研 究	「老年看護実践課題研究」では、看護研究の本質と基本的方法を学び、老年看護の実践の現場で生じる様々な問題や課題について研究を通して分析、改善し、実践の質を高める能力を養う。	三重野 英子 小 野 光 美

2. 長期履修制度について

この制度では、標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者（家事、育児及び介護など）です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また、修学状況等の変動により、申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照して下さい。

また、入学後履修期間を延長する場合、授業料総額に追加的費用が発生します。

なお、申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

【授業料の納入例】（年度により変更がないと仮定した場合）

標準修業年限（2年）

1年次 (535,800円)	2年次 (535,800円)	1,071,600円
-------------------	-------------------	------------

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (357,200円)	2年目 (357,200円)	3年目 (357,200円)
-------------------	-------------------	-------------------

$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (267,900円)	2年目 (267,900円)	3年目 (267,900円)	4年目 (267,900円)
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

$1,071,600円 \div 4年 = 267,900円$

3. 社会人への特例措置（昼夜開講制）

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることになります。このため、大学院設置基準第14条「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」のもとに、社会人の就学への配慮をしています。

このことをふまえ、本専攻では、平成16年度（2004年度）から、社会人が勤務と両立しながら更なる探究の機会を取得できるように、上記の「教育方法の特例」を適用して、昼夜開講制による授業を実施しています。また、受講生の勤務状況や通学事情等により、オンライン授業や集中講義を取り入れ、講義の日程や方法を柔軟に調整しています。

4. 入学手続

入学手続の詳細については、合格通知とともに送付する「入学手続のご案内」によりお知らせいたします。

なお、入学手続日に入学手続をしなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

(1) 入学料及び授業料

入学料 282,000 円
授業料 (年額) 535,800 円 (前期分 267,900 円 後期分 267,900 円)

- 注1 入学料については、免除・徴収猶予の制度が、授業料については免除の制度があります。
免除・徴収猶予の申請は、入学手続期間に行う必要がありますので、詳細については、学生・留学生支援課奨学支援係 (TEL097-554-7386) までお問い合わせください。
- 注2 入学料・授業料は改定されることがあります。
なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。
- 注3 既納の入学料は返還できません。
- 注4 入学料の免除・徴収猶予を申請される方は、入学料を払い込まずに入学手続期間に申請書類を提出してください。ただし、入学手続完了後に入学を辞退した場合は、直ちに入学料を納付しなければなりません。
- 注5 **国費外国人留学生については、入学料・授業料を納付する必要はありません。**

(2) 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金制度があり、本人の申請により貸与が認められた場合の貸与月額は、次のとおりです。

大学院第一種奨学金 (無利子)	月額 50,000円又は88,000円
大学院授業料後払い制度 (無利子)	授業料支援金年額最大535,800円と生活費奨学金月額0円 (利用しない) ・20,000円・40,000円から選択
大学院第二種奨学金 (有利子)	月額 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択

(3) 育児支援サービス補助事業

育児と学業との両立を支援することを目的とし、育児支援サービスを利用する際の料金の一部を大学が負担する事業があります。詳細については、男女共同参画推進室 (TEL 097-554-8573、E-mail fsupport@oita-u.ac.jp) までお問い合わせください。

(4) 学生教育研究災害傷害保険制度

この保険は、大学院在学中の実験・実習等の正課、学校行事又は課外活動中及び通学中に不慮の事故により被った負傷、死亡等の災害に対する補償制度であり、保険料は2年間分で1,790円です。

(5) 問い合わせ先

大分大学学生支援部入試課
〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
TEL 097-554-7006

Ⅲ. 大分大学の位置図

大分大学大学院医学系研究科（^{はきま}狭間キャンパス） ※試験会場

所在地 〒879-5593 由布市狭間町医大ケ丘1丁目1番地

T E L 097-586-5540、5541

交通アクセス 〈バス利用〉

大分バス〔中央通り②のりば（トキハデパート前）〕又はJR大分駅府内中央口（北口）〔大分駅前5番のりば〕から「大学病院」行き又は「大学病院」経由を利用（約40分）、「大学病院」下車（詳細は時刻表で確認してください。）

大分大学学生支援部入試課（^{だんのほる}旦野原キャンパス） ※入学志願書提出及び入学手続先

所在地 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

T E L 097-554-7006

交通アクセス 〈JR利用〉

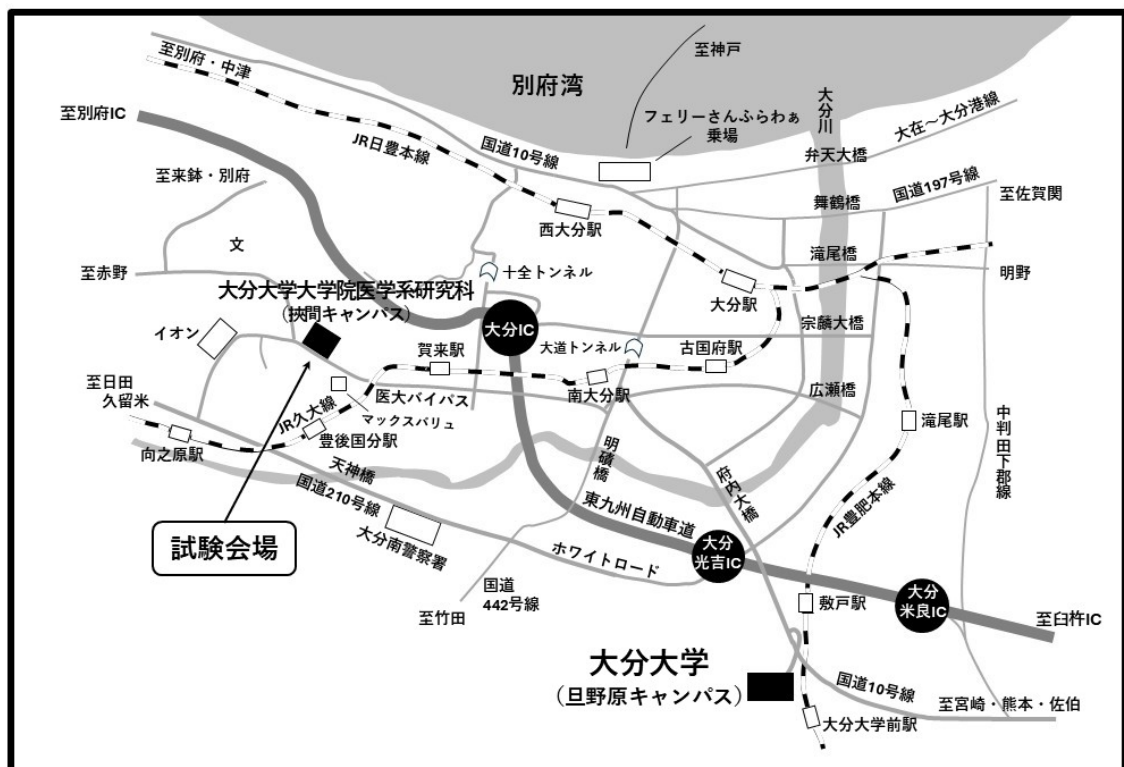
JR豊肥本線「大分大学前駅」下車（大分駅より約15分）、徒歩約10分
〈バス利用〉

大分バス 中央通り〔1番のりば〕又はJR大分駅府内中央口（北口）〔大分駅前3番又は4番のりば〕から

○「^{だいなん}大南団地（^{たかえ}高江ニュータウン）」行きを利用（約40分）、「大分大学」又は「大分大学正門」下車

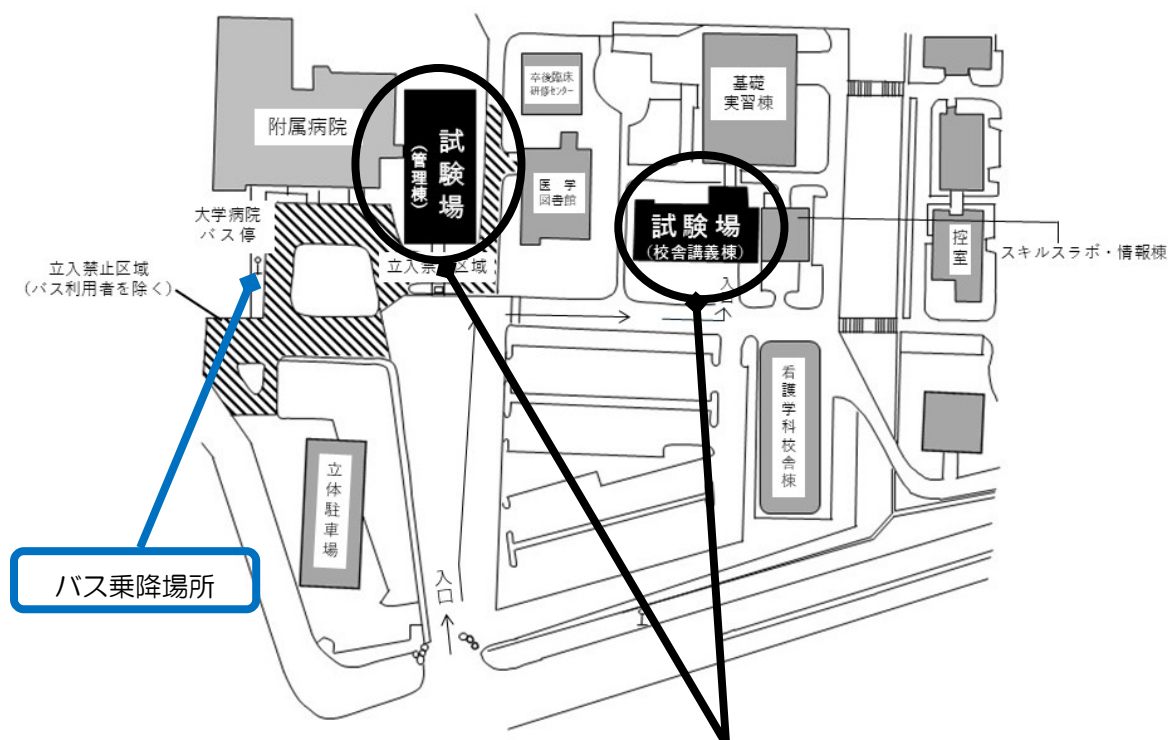
○「^{へつぎ}戸次、^{うすき}臼杵、^{さいき}佐伯」行きを利用（約40分）、「大分大学入口」下車、徒歩約10分

（詳細は時刻表で確認してください。）



医学系研究科修士課程看護学専攻試験場案内

(大分大学医学部 狭間キャンパス建物案内図)



【第1次募集】

集合日時：令和7年（2025年）7月16日（水）10時00分

集合場所：校舎講義棟2階 202講義室

【第2次募集】

集合日時：令和7年（2025年）10月2日（木）10時00分

集合場所：管理棟3階 中会議室

【第3次募集】

集合日時：令和8年（2026年）3月6日（金）10時00分

集合場所：管理棟2階 202講義室

※「小論文」終了後の「口述試験」の実施方法、実施時間等は試験当日お知らせします。

入学試験に関する問合せ先

〒870-1192 おおいたしおおあざだんのはる 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課

TEL 097-554-7006